

平成 28 年度足寄町商工会経営発達支援計画
(伴走型小規模事業者支援推進事業) 実施に伴う事業評価会議記録

評価機関名 足寄町商工会
開催日時 平成 29 年 2 月 21 日 (火) 午後 2 時～午後 3 時 45 分
開催場所 足寄町商工会館会議室
出席者 評議委員 足寄町役場経済課 室次長 小松芳幸
足寄町役場経済課 主査 村石靖
北海道銀行足寄支店長 木村基
帯広信用金庫足寄支店長 平松央
北海道商工会連合会十勝支所長 星圭司
専門家 商業からのまちづくり工房 代表 加藤玲
(株)アイ・ピー・エス 代表取締役 八田裕二
事務局 佐々木健一、橋本政明、前崎幸男

1. 足寄町商工会経営発達支援計画の概要について
橋本指導課長より別紙資料 1 に基づき説明した。
2. 伴走型小規模事業者支援推進事業について
橋本指導課長より別紙資料 2 に基づき説明した。
3. 平成 28 年度経営発達支援事業実施 (伴走型小規模事業者支援推進事業実施) 状況報告及び事業評価について
(株)アイ・ピー・エス、八田氏より伴走型小規模事業者支援推進事業に関する調査報告書について別紙資料 3 に基づき説明した。
前崎振興課長より経営発達支援事業実施評価シートについて別紙資料 4 に基づき説明した。

①地域経済動向の調査に関すること

(1) ヒアリングシートを活用した経済動向調査

【目標設定なし】

職員の計画的な巡回支援により、事業者への情報提供ができた。29 年度はヒアリングシートを活用した巡回支援で課題の抽出・解決に結び付け、きめ細やかな支援体制を築いていく。

(2) 専門家・地域金融機関等の動向調査及び動向分析

【目標設定なし 調査件数 4 件】伴走型補助金活用

伴走型補助金にて専門家を活用し、①四半期ごとに発表される官公庁や金融機関の経済動向データを収集し、その結果をもとに年 3 回情報提供した。②町内での宿泊需要を探るために企業に対して出張の現状とニーズを調査した（345 社発送：回収 122 件）。③、②と合わせて 27 年度と同様の設問を使って、企業の経営動向を調査した（345 社発送：回収 122 件）。④観光系の大学と連携しモニター調査や意見交換を進めながら足寄町の観光振興の方向性と具体的な展開へと進めた。今後巡回等支援での基礎資料として情報提供する。

（3）インターネット等での情報収集

【目標設定なし 実績 21 件】

持続化・ものづくり補助金等計画書作成の際、インターネット等を活用し 21 件経済動向調査を行った。

②経営分析需要動向調査に関すること

（1）巡回支援等における経営分析・需要動向調査

【目標：巡回 1,690 件、窓口 790 件 実績：巡回 1,095 件、窓口 1,336 件】

28 年度は巡回支援を見直し、巡回と窓口の強化期間を分けて重点的に支援を行った（道連の巡回目標である指導員 1 名あたり 400 回はクリアしている）。

特に窓口支援（26 年度 580 回⇒27 年度 906 回⇒28 年度 1471 回）が増え、中でも経営革新（26 年度 59 回⇒27 年度 216 回⇒28 年度 259 回）が大きく増加し、継続した支援（伴走型）を行う企業が増えた。

（2）専門家を活用した経営分析・需要動向調査

【目標：専門家派遣 3 件、巡回 20 件 実績：専門家派遣 3 件、巡回 22 件】伴走型補助金活用

伴走型補助金にて専門家を活用し、企業ヒアリングを 22 件実施し、経営課題の抽出を行った。次年度以降の課題解決に向けて事業計画書作成へと誘導した。

（3）ネット de 記帳を最大限活かした経営支援

【目標：130 件、ネット 20 件 実績 35 件、ネット 20 件】

従来のネット de 記帳推進にとどまった。分析数は 35 件であった。（今後個人決算で 60 件程予定）

③事業計画の策定実施支援に関すること

（1）事業計画策定までのアプローチ

【目標：30 件 実績 21 件】

事業計画書策定の必要性について、商工会通信及び理事会、部会議等で説明し、研修会の出席の呼びかけ 16 名の参加があった。結果作成ベースで（27 年度補正、28 年度補正合わせて）持続化補助金の計画策定 12 件、ものづくり補助金 6 件、経営力向上計画 1 件、展示会等出展 2 件（合計 21 件）であった。その他創業補助金、IT 補助金等の各種補助金の情報提供を行った。

（2）専門家等を活用した事業計画策定説明会の開催

【目標：1 回 実績 1 回】伴走型補助金活用

小規模事業者持続化補助金、ものづくり補助金、事業計画書作成セミナーを通して事業計画書を作成した事業所に対し、フォローアップを行った。

（3）事業計画策定後の支援

【目標：32 件 実績：17 件】

小規模事業者持続化補助金、ものづくり補助金、事業計画書作成セミナーを通して事業計画書を作成した事業所に対し、フォローアップを行った。

④創業・第二創業に関すること

（1）創業支援と創業塾の開催

【目標：塾 1 回、支援数 5 件 実績：塾 0 回、支援数 9 件】

主開催には至らなかったが足寄町経営塾の開催に際し、創業予定者の支援を行った。窓口にて創業予定者の支援ができた。他町開催の創業塾の情報提供（チラシ折込）を 2 回行った。

（2）創業後のフォローアップ

【目標：支援数 5 件 実績 2 件】

創業者（1 件）を支援し開業に至った。1 月創業者のフォローアップ支援を行い、記帳の指導、持続化補助金の 2 回の申請、販路開拓（展示会等出展）支援、SHIFT の活用ができた。

⑤小規模事業者販路開拓支援に関すること

（1）展示会商談会への出展による販路開拓支援

【目標：支援数 3 件 実績支援数：3 件】

伴走型補助金を活用した展示会出展支援し（「北の味覚再発見」「なまらいいっしょ北海道フェア」）、アンケート、顧客ニーズの調査結果を事業計画策定に活用できた。「made in 北海道」への展示会出展支援を行った。

(2) インターネットの活用による販路開拓支援

【目標設定なし】

小規模事業者持続化・ものづくり補助金申請等を通じて SHIFT の登録支援を 7 事業所行った。ニッポンセレクトに 1 件出展登録した。

(3) 施策の活用による販路開拓支援

【目標：SHIFT 登録 20 件、なまらいいっしょ北海道登録 5 件 実施：SHIFT 登録 7 件、ニッポンセレクト 1 件】

小規模事業者持続化・ものづくり補助金申請等を通じて SHIFT の登録支援を 7 事業所行った。ニッポンセレクトに 1 件出展登録した。

⑥地域経済活性化に関すること

(1) 特産品の取り組みにおける地域活性化対策

【目標：登録企業 10 件、登録品目 20 品目 実施なし】

十勝足寄のめぐみブランド推進協議会への立ち上げ準備を開始した。28 年度事業開始するところ、内部体制が整わず、実施できなかった。

(2) その他特産品の取り組みにおける地域活性化対策

【目標設定なし 実績：3 品目】

特産品開発の相談及びアドバイスをを行い 3 品目新商品が完成した（オンネットブルー、しあわせラクレットチーズバーガー、羊乳チーズ）。2 年目支援を強化し売上増を目指す。

⑦支援力向上に関すること

(1) 支援機関・金融機関・広域連携による支援機関との連携及び情報の交換

研修会の情報交換会で、全国連から他地域の状況、取り組みなどの情報交換を図ることができた。総合支援センター、中小機構等と連携強化を図ることができた。

(2) 職種別の資質向上、職員間での情報・知識の共有

道商工会連合会の研修体系による研修会へ参加した。今年度から若手職員の研修後の振り返りを行い、研修内容等を職員間で共有した。職員会議にて、事業内容等の共有及び、基幹システムの経営カルテを活用し情報の共有を図った。

(3) 専門家派遣の活用と資質向上

伴走型補助金を通じて専門家を活用（6 日間：22 件）し、初めて職員全員巡回ヒアリングに同行し、資質向上を図った。その他専門家派遣事業活用 3 回（2 件）。

（４）OJT による資質向上

上記専門家に同行した巡回支援ができ支援ノウハウを学び資質向上に役立てた。29 年度は職員 2 名体制による巡回支援をスタートする。

（５）事務局での進捗状況の確認及び事業内容の検証

毎月職員会議を開催し、事業内容等の共有並びに実施体制に向けて協議を重ねた。経営発達支援事業の進捗会議も 10 回併せて実施した。

（６）理事会での評価・検証・見直し方針の決定

商工会理事会にて経営発達支援事業の進捗状況について 2 回報告した。

（７）有識者での評価・検証・見直し方針の決定

当初半期毎の開催予定であったが、実施できず、2 月開催となった。

（８）会員・町への報告・承認、事業結果の公表

総会議案書にて周知並びに HP で公表した。

本事業の事業ごとに設定した目標値と実績値に対して、事務局で A、B、C の 3 段階評価した。残り 1 カ月程度あるので、目標値をクリアするものもあると思われる。

４．事業の評価・見直し結果の内容について

外部有識者からの意見等は下記のとおり。

足寄町には良い資源がありながら、先頭立って発信されていない。観光は一次だけでなく、二次、三次に波及する効果がある。もっと力を入れるべきである。

オンネトーは人材面、施設面どれをとっても整備されておらず現状は厳しい。IC 開通により通行が減少傾向にある。観光を考える丁度良いタイミングに来たのかなと思う。もっと観光振興に取り組むべきである。

ヒアリングの中からも、企業にも、若い力もある。良い方向に行くと思われる。

商工会の経営発達支援事業の組み立てとして、どうやって会員企業へフィードバックするのかが問われている。総会資料と一緒に報告書を添付。HP で公表するだけではなく工夫するべきである。

HP や総会だけの公表の場だけでなく、手だてはある。すなわち巡回等で個々に活用する。青年部・女性部等に積極的に開示する。情報公開の機会を持つことはできると思う。

観光サイドからの動きでは、DMO（Destination Marketing/Management Organization）の設立を目指している。三町（本別町、足寄町、陸別町）連携のもと、銀河の里 DMO が動き出し、今後来てもらうきっかけを作る。それぞれの機関で同じゴールを目指していると感じる。それぞれやっては無理があるし、一つの町では揃わない（宿泊施設の問題、飲食店の問題など一方だけでは完結しない）。

商工会、町、観光協会など役割分担する必要がある。次年度、担当者間でワークショップをするなどして、共通認識を図りたい。

ルート観光が一つのテーマとなっている。自分、地元ありきだが、三町で回そうという考え方。一つの町だけでは立ち寄らない。一つでも光るものをつくるべき。例えば阿寒広域として、弟子屈町（川湯、摩周）、阿寒（湖畔）、足寄（オンネトー）で連携するなど。鶴居村でもこの時期（2月）丹頂を見に、宿泊施設が満杯になる。だから夏をどうやって呼ぶか課題がある。

足寄町の宿泊需要は、需要の質が違う。工事関係の宿泊が中心で需要が安定している。しかしアンケートをとっても消費者からのニーズでは、東横インなどのシングルユースである。もちろん立地から言っても必要であるし、十分供給できると思う。この動向調査をどう事業者の説明するか課題である。

その他、事務局は意見等を求めたが特に発言はなく、評価委員会を閉会した。時に午後3時45分であった。